

4-1 地域公共交通に対する課題

地域公共交通に関して「第2章 地域公共交通を取り巻く現状」と「第3章 地域公共交通に対する町民・地域の考え方」から見えてきた課題を以下のとおり整理します。

	現 状	問 題 点	課 題
第2章 公共交通を取り巻く現状	人口減少・少子高齢化 □本町の人口は昭和55(1980)年と比較し、約4割減少 □平成30年度における高齢化率は40.9% □郊外部を中心に公共交通空白地域が存在 □郊外部における著しい人口減少	□人口減少に伴う公共交通利用者の減少 □高齢者を中心とした交通弱者の増加 □郊外部における散居形態の進行	- 人口減少・少子高齢化に対応した公共交通網の構築 - 郊外部における居住形態を考慮した移動支援策の検討
	機能都市 □都市機能は月形市街地に集約	□町内各地区から月形市街地までの移動が必要	各地区から月形市街地までの生活行動を支援する取組の検討
	自動車社会・事故 □自動車保有台数は概ね横ばい □交通事故に占める高齢者が第一次当事者の割合が一定数存在 □70歳以上になっても運転意向有	□高齢者による交通事故抑制に向けた免許返納を推進するための移動支援策の不足	高齢者のバス利用を促す取り組みの検討
	観光 □本町の観光入込客数は、10万人前後 □更なる観光誘客の検討	□町内を目的地とした観光客の公共交通利用は少ない	観光客誘客を目的とした公共交通と観光施設への移動の検討
	札沼線 □JR札沼線の廃止が決定 □月形駅～当別方面への移動が多い □浦臼駅からも一定数の利用者が存在	□廃止代替バス路線の検討 □廃止代替バスに接続する市内各地区からの移動手段の確保	JRの利用実態をもとにした廃止代替バス運行計画の検討
	路線バス □日中時間帯の利用者数が少ない □通勤・通学者が少ない休日において利用者数が少ない □町内の市街地を中心に運行	□市街地の限られた地域での運行 □気軽に利用することが難しい	町民が利用しやすい運行形態の検討
	スクールバス □通学時間帯のみの運行 □小・中学生が対象 □一般混乗が可能	□一般利用は片道のみ □市街地からの帰宅はハイヤーに依存 □町民の経済負担が大きい	郊外部における移動支援策と連携するなど、町民が使いやすい運行内容への見直し等を検討

意見・提案		課題
第3章 地域公共交通に対する 町民・地域の考え方	広域交通	☐ 当別町方面への移動での町民ニーズに即したサービス水準の検討 ☐ 町内から町外への移動で最も多い岩見沢市への生活交通の利便性向上の検討 廃止代替バスのサービス水準の検討 月形町から岩見沢市までの生活移動に係るバスサービスの検討
	交通 町内	☐ 町民移動を支援する新たな公共交通の検討 町内における生活移動の利便性向上に資する公共交通施策の展開
	拠点 乗継	☐ 様々な公共交通が集まる乗継拠点の検討 ☐ 買い物をしながら滞在できる空間の創出 拠点の形成を検討
	促進 利用	☐ バス交通に関する情報提供機能の強化 利用促進の展開

5-1 基本方針

本町における上位・関連計画や地域公共交通の課題を踏まえ、月形町地域公共交通網形成計画の基本方針を次のとおり定めます。

月形町に安心して暮らし続けられる生活交通の確保

～いま、町民とともに公共交通網をつくり、守り、育てるとき～

《基本方針の考え方》

- ・本町内を運行するＪＲ札沼線は、平成32年5月をもって廃止となり、新たに町民の生活の足として、ＪＲ札沼線廃止代替バス路線を運行させることになりました。
- ・その際、廃止代替バスを運行させるにあたっては、町民の移動実態やニーズを十分に反映させることが重要であり、町民の「声」を聴きながら、継続的に廃止代替バスの運行内容を見直していく必要があります。
- ・また、廃止代替バスのみならず、町民の主な移動先である岩見沢市へ接続している、月形線を町民が有効活用できる仕組みを検討するほか、町内の公共交通についても、近年の高齢化や人口減少等の進行を踏まえ、自動車等で自ら移動することができない町民が、安心して利用できる新たな公共交通の導入を検討します。
- ・さらに、これら公共交通の接続を確保するとともに、乗り継ぎに係る負担軽減に資する交通結節点の構築についても検討していくこととします。
- ・これら一連の取り組みの実施に向けては、適宜適切に町民の「声」を反映できるよう、進捗管理等は月形町地域公共交通活性化協議会及び月形町地域公共交通活性化協議会部会でモニタリングなどを行っていきます。

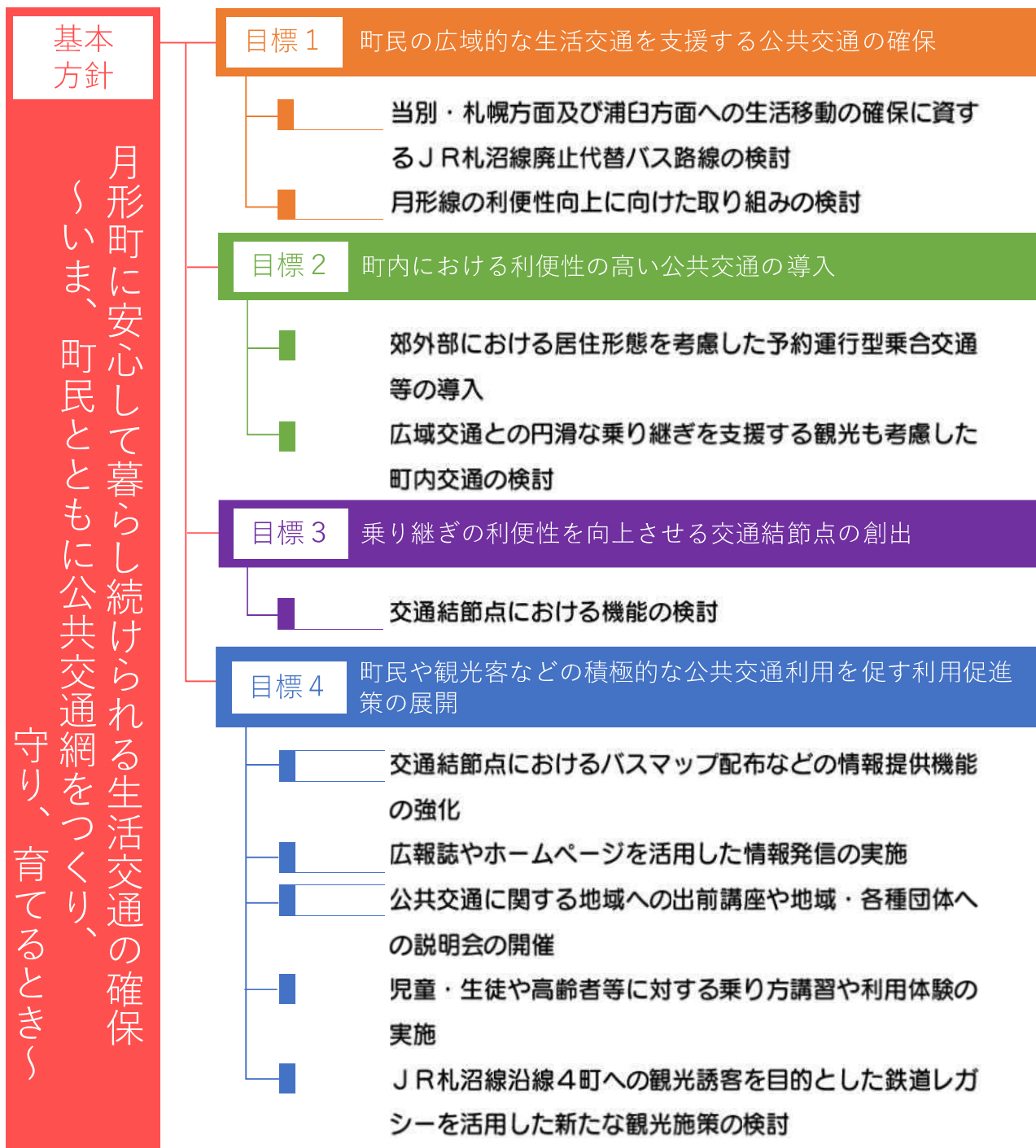
5-2 目標

上記の基本方針をもとに、本町における公共交通網の目標を次のとおり定めます。

目標 1	町民の広域的な生活交通を支援する公共交通の確保
目標 2	町内における利便性の高い公共交通の導入
目標 3	乗り継ぎの利便性を向上させる交通結節点の創出
目標 4	町民や観光客などの積極的な公共交通利用を促す利用促進策の展開

5-3 目標達成に向けた施策

基本方針及び将来像を踏まえ、各目標で実施すべき施策を以下のとおり整理しています。



〈利用促進策等〉

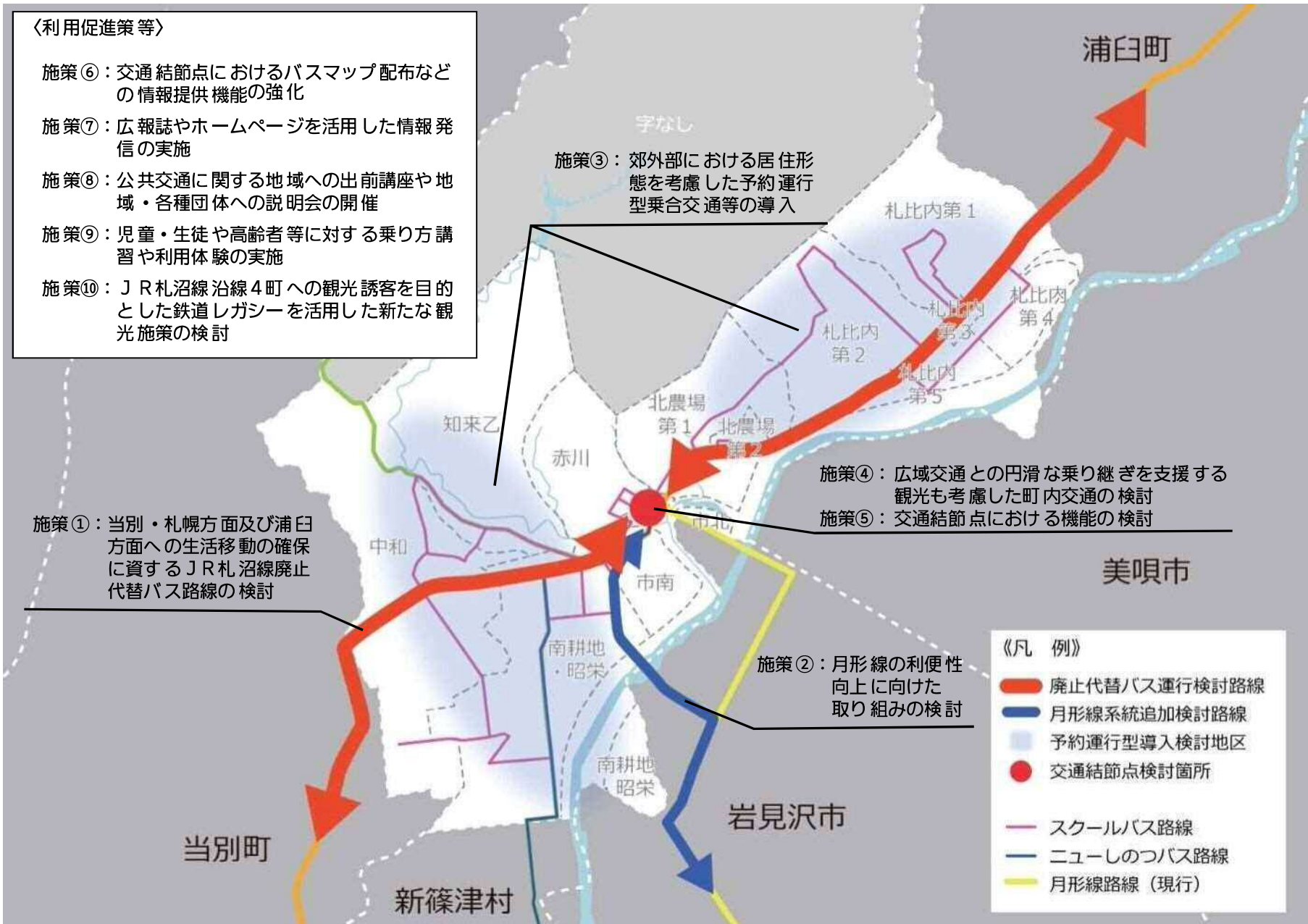
- 施策⑥：交通結節点におけるバスマップ配布などの情報提供機能の強化
- 施策⑦：広報誌やホームページを活用した情報発信の実施
- 施策⑧：公共交通に関する地域への出前講座や地域・各種団体への説明会の開催
- 施策⑨：児童・生徒や高齢者等に対する乗り方講習や利用体験の実施
- 施策⑩：J R 札沼線沿線4町への観光誘客を目的とした鉄道レガシーを活用した新たな観光施策の検討

施策①：当別・札幌方面及び浦臼方面への生活移動の確保に資するJ R 札沼線廃止代替バス路線の検討

施策③：郊外部における居住形態を考慮した予約運行型乗合交通等の導入

施策④：広域交通との円滑な乗り継ぎを支援する観光も考慮した町内交通の検討
 施策⑤：交通結節点における機能の検討

施策②：月形線の利便性向上に向けた取り組みの検討



5-5 具体的な施策

目標 1 町民の広域的な生活交通を支援する公共交通の確保

JR 札沼線が廃止となることから、当別・札幌方面あるいは浦臼方面への広域的な生活移動の確保を目的に廃止代替バスの検討を行い、JR 札沼線が廃止となる平成 32 年 5 月までに新たな広域公共交通としての運行を行います。

また、町民の町外への移動実態として、最もニーズが高い岩見沢方面については、現在運行している月形線の便数や時間帯等の運行内容を基本としつつ、より町民が利用できる機会の増加に向け、町内における運行区間の見直しを検討し、交通事業者等の関係者と継続的に協議を進めていきます。

施策① 当別・札幌方面及び浦臼方面への生活移動の確保に資する JR の札沼線廃止代替バス路線の検討

実施概要 イメージ

- ・ JR 札沼線の廃止に伴う代替バスの運行について、現在の JR 札沼線の利用状況や町民の公共交通に対するニーズを踏まえ、運行ルートや運行時間帯、便数、運賃等の運行内容を検討し、町民等が使いやすいバス路線の整備を行います。
- ・ なお、運行ルートの検討については、国道 275 号の運行ルートを主としますが、住民ニーズ等を踏まえ、月形高校の接続など利用者にとって望ましい運行ルートを設定します。また、バス停設置箇所について、近くに駐車できる場所を検討するほか、廃止代替バスの安全な運行のために、バスベイ（停留所に設置されたバス専用の停車スペース）の設置を検討する必要があります。一方で、バスベイの設置は、用地買収等の関係者との協議に時間を要することが想定されることから、協議が調った箇所から順次、設置を行っていくこととします。

■検討内容

- ・ 運行ルート及びバス停位置の検討
- ※バス停設置については、関係者との協議が調った箇所から順次設置
- ・ 運行便数の検討
- ・ 始発及び終発時間の検討
- ・ 運賃の検討



図 2 1 廃止代替バス運行イメージ図

実施エリア 月形町及び関係する自治体

実施主体 月形町、関係する自治体、交通事業者

施策② 月形線の利便性向上に向けた取り組みの検討

実施概要 イメージ	・町民の町外への移動実態として、最もニーズの多い岩見沢方面については、現在、本町と岩見沢市間を運行している月形線を有効活用することを想定しています。 ・一方で、現在の月形線は、月形大橋を経由して道道6号線を運行するルートとなっており、町内を運行する区間は市街地の限られた区間となっています。 ・そこで、町民における月形線の利用機会拡大を目的に、可能な範囲で町内をより多く運行できるルート（例えば、平成28年9月に開通したみらい大橋経由のルートなど）を設定するなど、交通事業者と継続的な協議を行っていきます。 ・また、月形線の運行ルート変更については、運行ルートの除排雪やバス路線の安全性確保のための信号機の設置など、各種関係者との協議もあわせて行っていくます。 ■検討内容 ・運行ルートの見直し検討 ※国道275号合流部における信号機設置等の関係者協議を実施 ・運行時間帯の検討 ※通勤・通学時間帯においては、既存の運行ルートを運行するなど、町民ニーズを踏まえた検討が必要 ・除排雪やバス路線運行に係る費用負担の関係自治体との協議 平成28年9月に開通したみらい大橋
実施エリア	月形町及び関係する自治体
実施主体	月形町、関係する自治体、警察、交通事業者

図 2 2 月形線の運行内容見直しイメージ

目標2 町内における利便性の高い公共交通の導入

本町では町民の生活交通の確保として、民間交通事業者による鉄道及びバス路線が運行されているほか、本町独自の施策として、町内各地区を運行するスクールバス路線への一般混乗やハイヤーの利用料金の支払いにも活用できるぬくもり福祉券の配布など、町民の生活移動の支援を行っています。

一方で、今後も進行する人口減少や高齢化に伴い、自由に移動することができない町民が増加することが懸念され、現在の支援施策だけでは、町民の生活移動を支援し続けることが困難となることが想定されます。

そこで、現在実施しているスクールバス路線への一般混乗等のほか、これら生活移動支援施策と連携した町内移動に係る新たな公共交通の検討・導入を行っていきます。

その際、町民の町内移動を支援するだけではなく、廃止代替バス路線や月形線など広域的な公共交通との接続性を確保することで、町民の町外への移動も支援できるような運行内容を検討します。

施策③ 郊外部における居住形態を考慮した予約運行型乗合交通等の導入

実施概要 イメージ	・現在スクールバスが運行している郊外部において、町民の生活移動を支援する取り組みとして、スクールバスが運行していない時間帯に、予約に応じて運行する予約運行型乗合交通等を導入し、町内移動に係る利便性の向上を図ります。 ■検討内容 ・運行エリア及び発着場所の検討 ・運行曜日の検討 ・運行便数の検討 ・運行時間の検討 ・運賃の検討  図 2 3 町内郊外部への予約運行型交通等の導入イメージ
実施エリア	月形町郊外部
実施主体	月形町、交通事業者

施策④ 広域交通との円滑な乗り継ぎを支援する観光も考慮した町内交通の検討

実施概要 イメージ	・町内交通の検討にあたっては、町民の広域的な生活移動も支援できるよう、廃止代替バスや月形線等の広域交通との円滑な乗り継ぎが行える運行時間帯等の設定を検討します。 ・また、広域交通と町内交通の接続性の確保に向けては、町民利用のみならず、町内への観光客が利用しやすい公共交通網を検討していくことも必要です。 ■検討内容 ・広域交通に合わせた町内交通の時刻設定の検討 ※市街地の交通結節点で接続させることを想定 ・町内観光客も利用できる運行内容を検討 図 2 4 町内交通と広域交通の接続性の確保イメージ
実施エリア	月形町全域
実施主体	月形町、交通事業者

目標3 乗り継ぎの利便性を向上させる交通結節点の創出

町民の生活利便性の向上を図ることを目的に、町内交通と広域交通とが円滑に接続でき、乗り継ぎにかかる負担軽減に資する交通結節点の創出を検討します。その際、現在本町で策定を進めている「月形町地域拠点化整備基本構想」と連携して施策を推進していきます。

施策⑤ 交通結節点における機能の検討

実施概要 イメージ	・月形町地域拠点化整備基本構想のコンセプトである「樺戸HUB」では、交通の観点のほか、地元産業、歴史文化、交流、暮らしの観点から拠点に必要な機能を整理しています。 ・とりわけ、交通面に関しては、既存、広域、新たな町内公共交通、ハイヤーなど様々な交通の結節点を創出し、町民の生活利便性の向上を図ることを示しています。 ・これらを踏まえ、創出される拠点には、各種公共交通間の円滑な乗り継ぎを支援する交通結節点としての機能のほか、各種公共交通の運行内容の情報発信機能を整備していくこととします。
実施エリア	月形町市街地
実施主体	月形町、交通事業者、その他関係者

図 25 町内地域拠点が持つ機能のイメージ

出典：月形町地域拠点化整備基本構想

目標４ 町民や観光客などの積極的な公共交通利用を促す利用促進策の展開

本町の公共交通網を再構築するにあたっては、広域交通を含む各種公共交通の整備を進めていくとともに、町民や本町への観光客が積極的に公共交通を利用する意識を醸成していくことも重要です。

そこで、町内を運行する各種公共交通の運行情報等を整理したバスマップを作成するほか、町民や町内各種団体を対象とした利用促進策を展開していきます。

また、本町を含むＪＲ札沼線沿線自治体への観光誘客を目的に、ＪＲ札沼線の鉄道レガシーを活用した観光施策についても検討していくこととします。

施策⑥ 交通結節点におけるバスマップ配布などの情報提供機能の強化

実施概要 イメージ

- ・本町内を運行する公共交通の情報発信として、各種公共交通の運行情報を記載した総合的なバスマップを作成し、町民への配布を行います。
- ・また、観光客等の本町への来訪者に対しては、市街地に整備を予定する地域拠点等での配布を検討します。

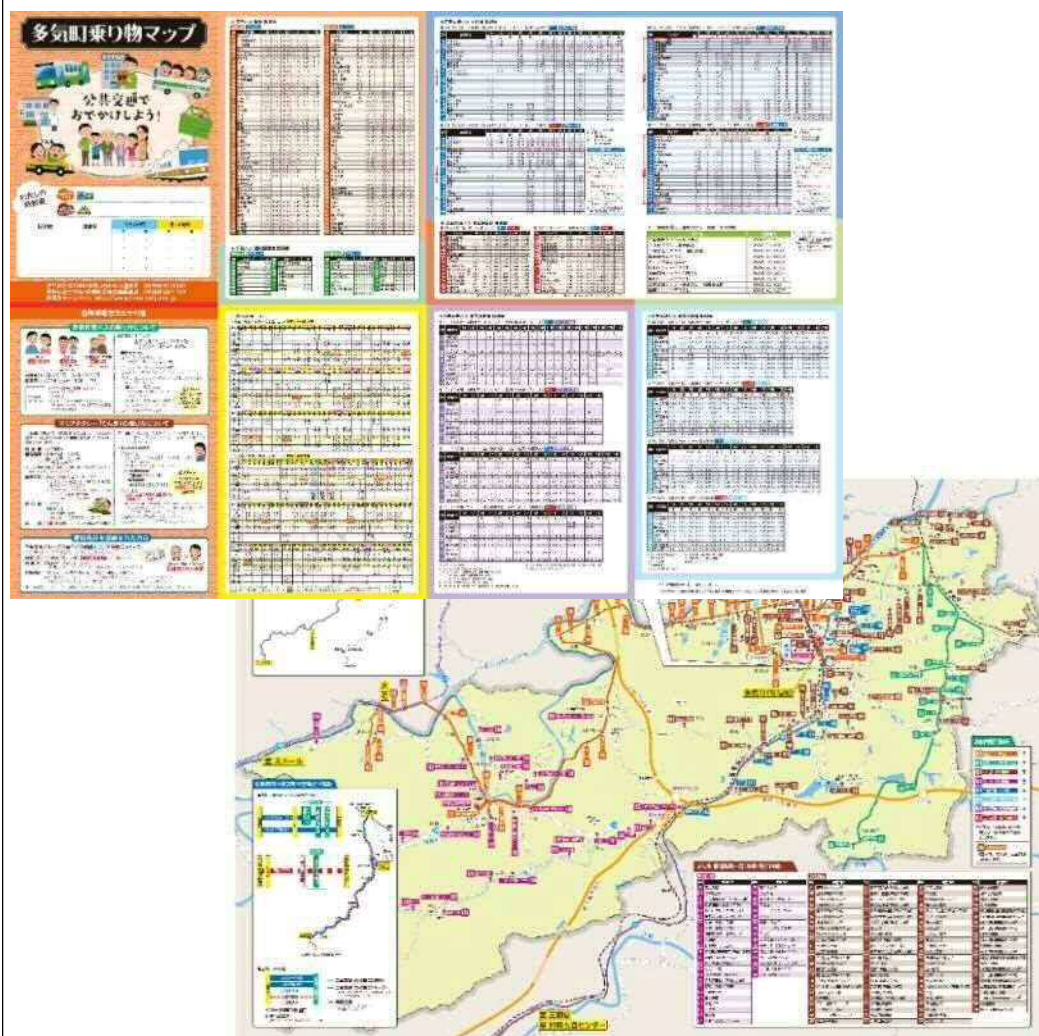


図 26 町内交通を網羅したバスマップの事例

出典：多気町

実施エリア	月形町
実施主体	月形町、交通事業者

施策⑦ 広報誌やホームページを活用した情報発信の実施

実施概要
イメージ

- ・市内公共交通の運行情報について、バスマップ等での情報発信を行っていくほか、本町が発行する広報誌を活用して、町民に対して定期的に公共交通に関する情報提供を行っています。
- ・また、本町ホームページのトップページから市内公共交通の運行情報を取得できるようにするなど、町内を運行する公共交通に関する情報発信方法の見直しも検討します。



図 27 公共交通に関する情報を発信している事例

出典：飯能市



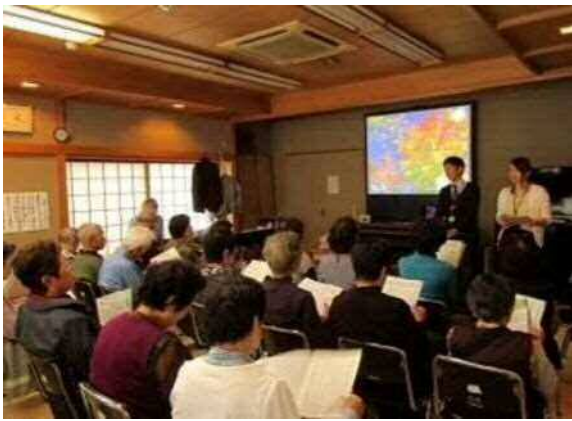
図 28 市町村ホームページから情報にアクセスしやすい事例

出典：桶川市

実施エリア 月形町

実施主体 月形町

施策⑧ 公共交通に関する地域への出前講座や地域・各種団体への説明会の開催

実施概要 イメージ	・町民の積極的な公共交通利用を促すことを目的に、町民を対象とした地域への出前講座の実施や、各種団体等への公共交通に関する説明会等を開催していきます。	
図 29 出前講座の様子 出典：飯能市		
実施エリア	月形町	
実施主体	月形町、町民、その他関係者	

施策⑨ 児童・生徒や高齢者等に対する乗り方講習や利用体験の実施

実施概要 イメージ	・町内を運行するバス路線や運行時間帯を知らないことが、町民のバス利用を妨げる一要因となっていることが想定されるため、高齢者等の町民を対象としたバスの乗り方講習や利用体験を実施します。 ・また、小学生や中学生などの若い世代から、公共交通を身近な存在として認識していただくため、児童・生徒に対しても上記の取り組みを行うこととします。	
図 30 小学校におけるバスの利用体験 出典：中央バス		
実施エリア	月形町	
実施主体	月形町、教育委員会、町内小・中学校、交通事業者	

施策⑩ JR札沼線沿線4町への観光誘客を目的とした鉄道レガシーを活用した新たな観光施策の検討

実施概要 イメージ	・JR札沼線沿線自治体の観光施設や商業施設等と連携したJR札沼線廃止に係るJR記念カード等の販売など、沿線自治体への観光客増加に資する取り組みを検討します。 ・本町における観光移動の支援として、町内に立地しているJR札沼線の駅舎及び休憩室を観光拠点と位置づけ、観光拠点における広域交通と町内交通の接続性の確保など、観光利便性の向上に資する取り組みを検討します。	 図 3 1 廃線駅の記念カード 出典：ありがとう夕張支線実行委員会
	 図 3 2 JR札沼線月ヶ岡駅に隣接する休憩室	
実施エリア	月形町及び関係する自治体	
実施主体	月形町、周辺自治体、交通事業者	

6-1 施策推進スケジュール

目標を達成するために行う施策について、推進スケジュールを以下に整理します。

表 6 施策推進スケジュール（施策①から施策⑤まで）

基本方針	目標	施策	目標年次					施策実施主体
			2019	2020	2021	2022	2023	
月形町に安心して暮らし続けられる生活交通の確保 ～いま、町民とともに公共交通網をつくり、守り、育てるとき～								
目標 1 町民の広域的な生活交通を支援する公共交通の確保								
施策① 当別・札幌方面及び浦臼方面への生活移動の確保に資するＪＲ札幌線廃止代替バス路線の検討			○	●	●	●	●	・月形町 ・関係する自治体 ・交通事業者
施策② 月形線の利便性向上に向けた取り組みの検討			○	○	●	●	●	・月形町 ・関係する自治体 ・警察 ・交通事業者
目標 2 町内における利便性の高い公共交通の導入								
施策③ 郊外部における居住形態を考慮した予約運行型乗合交通等の導入			○	●	●	●	●	・月形町 ・交通事業者
施策④ 広域交通との円滑な乗り継ぎを支援する観光も考慮した町内交通の検討			○	●	●	●	●	・月形町 ・交通事業者
目標 3 乗り継ぎの利便性を向上させる交通結節点の創出								
施策⑤ 交通結節点における機能の検討			○	○	○	○	●	・月形町 ・交通事業者 ・その他関係者

検討：○、実施：●

表 7 施策推進スケジュール（施策⑥から施策⑩まで）

基本方針	目標	施策	目標年次					施策実施主体
			2019	2020	2021	2022	2023	
月形町に安心して暮らし続けられる生活交通の確保 ～いま、町民とともに公共交通網をつくり、守り、育てるとき～								
目標4 町民や観光客などの積極的な公共交通利用を促す利用促進策の展開								
施策⑥ 交通結節点におけるバスマップ配布などの情報提供機能の強化			・月形町 ・交通事業者					
			○	○	●	●	●	
施策⑦ 広報誌やホームページを活用した情報発信の実施			・月形町					
			○	●	●	●	●	
施策⑧ 公共交通に関する地域への出前講座や地域・各種団体への説明会の開催			・月形町 ・町民 ・その他関係者					
			○	●	●	●	●	
施策⑨ 児童・生徒や高齢者等に対する乗り方講習や利用体験の実施			・月形町 ・教育委員会 ・町内小・中学校 ・交通事業者					
			○	●	●	●	●	
施策⑩ J R札沼線沿線4町への観光誘客を目的とした鉄道レガシーを活用した新たな観光施策の検討			・月形町 ・関係する自治体 ・交通事業者					
			○	●	●	●	●	

検討：○、実施：●

6-2 指標評価スケジュール

(1) 計画の目標

目標1 町民の広域的な生活交通を支援する公共交通の確保

本計画で町民ニーズに即した廃止代替バスの導入及び月形線の見直しを予定していることから、2つのバス路線の平日の利用者数の増加を指標として設定します。

評価指標	現況値 (2018)	目標値 (2023)
町内における廃止代替バスの平日利用者数の増加	142 人/日 ^{※1}	160 人/日
町内における月形線の平日利用者数の増加	109 人/日 ^{※2}	120 人/日

※1 町内に立地しているＪＲ札沼線５駅での平日乗降者数の合計

※2 月形線における町内運行区間での平日乗降者数の合計

目標2 町内における利便性の高い公共交通の導入

本計画で導入を検討する予約運行型乗合交通等の導入を行うことで、郊外部において、これまで自由に外出することができなかった町民が、利用したい時間帯に外出することができるようになることから、町内を運行するハイヤーの利用者数を含む町内交通の年間利用者数の増加を指標として設定します。

評価指標	現況値 (2018)	目標値 (2023)
町内交通の年間利用者数の増加	10,758 人/年 ^{※3}	11,850 人/年

※3 町内移動でハイヤーを利用している方の年間合計

目標3 乗り継ぎの利便性を向上させる交通結節点の創出

現在、本町で策定を進めている月形町地域拠点化整備基本構想と連携した交通結節点を創出することで、各種公共交通を利用した方が交通結節点に集まることが想定されることから、交通結節点の平日の利用者数の増加を指標として設定します。

評価指標	現況値 (2018)	目標値 (2023)
交通結節点の平日利用者数の増加	112 人/日 ^{※4}	130 人/日

※4 ＪＲ石狩月形駅での平日の乗降者数の合計

目標4 町民や観光客などの積極的な公共交通利用を促す利用促進策の展開

本計画に基づき実施する利用促進策の展開で、バス路線の運行情報の発信を行うことにより、町民の積極的な公共交通利用につながることを想定されることから、町民における公共交通の利用割合の増加を指標として設定します。

また、ＪＲ札沼線の鉄道レガシーを活用した観光施策を展開することにより、本町の年間の観光客数の増加を指標として設定します。

評価指標	現況値 (2018)	目標値 (2023)
町民における公共交通の利用割合の増加	21.7%※5	25.0%
年間の観光客数（町内観光施設等の利用者数）の増加	117,000 人/年 (2017 年時点)	130,000 人/年

※5 町民の買い物や通院における公共交通（ＪＲ札沼線、月形線、江別・月形線、スクールバス、ハイヤー）の利用割合

(2) 指標評価スケジュール

評価する上で、必要となるデータの把握方法及び評価スケジュールについて、下表に整理します。

表 8 指標評価のためのデータの把握方法

データ把握内容	調査手法概要等
町内における廃止代替バスの平日利用者数の増加	交通事業者からの貸与データ等による把握
町内における月形線の平日利用者数の増加	交通事業者からの貸与データ等による把握
町内交通の年間利用者数の増加	交通事業者からの貸与データ等による把握
交通結節点の平日利用者数の増加	施設管理者からの貸与データ等による把握
町民における公共交通利用割合の増加	住民ニーズ把握調査による把握
年間の観光客数の増加	既存統計資料による把握

表 9 指標評価スケジュール

評価指標	2019	2020	2021	2022	2023
町内における廃止代替バスの平日利用者数の増加		●	●	●	●
町内における月形線の平日利用者数の増加			●	●	●
町内交通の年間利用者数の増加		●	●	●	●
交通結節点の平日利用者数の増加					●
町民における公共交通利用割合の増加					●
年間の観光客数の増加		●	●	●	●